

Dr. Patricia Numannの特別講演 “Women Surgeons” から学ぶ

日本女性外科医会 富澤康子

日本女性外科医会は設立から2年半経過し、正会員134名、準会員49名、賛助会員2社となりました。2012年4月14日に開催しました第112回日本外科学会定期学術集会時の朝食会では、女性外科医で、American College of Surgeons (ACS)のプレジデントになられたDr. Numannが講演してくださいました。米国での女性外科医の増加は著しく、2011年には外科を選択する女性研修医が42%になりました。教育機関・学会において女性が重要な役割を果たすようになりつつあり、米国には131の医学部がありますが、学長16名、学部長13%、外科部長4名、そして外科学教授は8%となりました。Dr. Numannが30年前に設立した米国女性外科医会(AWS)と、ACSのWomen in Surgery Committeeとは車の両輪のように活動しています。注意深く状況を観察し、データを取り、リーダーシップをとって活動できるように女性外科医を教育し、メンターを育ててきました。女

性がリーダーとなり、きちんと地位に就けなくてはなりません。それには公正な昇進制度が必要であり、子供の産める時期に生じる女性にとっての不利益を解決しなければなりません。女性が社会的に活動するのに、また研究をするのにメンターがおらず、良い指導者に出会いにくいことが指摘されています。待つ価値のある物事に対して忍耐強く耐え、戦ってきたDr. Numannから得られた言葉の中に、今後、リーダーとなれる女性医師を育成するために、日本においてもリーダーシップ教育、マネージメントを含む多領域にわたる“教育”を含めなければならないことを強く感じました。

